



秋田市中通 6-7-36
 全国林野関連労働組合
 東北地方本部
 発行者 高橋 茂
 責任者
 TEL 018-832-6957
 FAX 018-834-7876

「-20℃のきらめき」

林写協：欠畑 信

「山」

林文協 須貝 龍男

日本のどこを見ても山がある

富士山や鳥海山も月山も山

八ヶ岳も赤岳も山

地元の薪取りや水を取り入れる山も山

三つの名前がある山

山(さん)・岳(だけ)・山(やま)の

三つの山には道もある

「さん」は修験者が道を切り開いて神

を奉った

神聖な聖域の山岳宗教の山

「だけ」は修験者が行けなかっただろ

う山

猟師の道かも知れない

「やま」は村人が生きるために水や薪

を取る山で

村の近くの裏山

と古老から教えられた鮮明な記憶

修験道や猟師道、村人の歩いた生活道

の山

これが明治八年からの三角点建設には
大変役立つ



「一緒に取り組む仲間を作る」

執行委員長 高橋 茂

2025年の年頭に当たりごあいさつ申し上げます。

組合員並びに林野労組ファミリーのみならず、新年明けましておめでとございます。また、昨年一年間の林野労組の取り組みや組織運営などにご協力頂いたことに対して、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年の人事院勧告ですが、月例給については、民間給与との較差2・76%を埋めるため、初任給をはじめ、若年層に重点を置き全職員への月例給引き上げ、一時金については、0・10月分引上げ、4・60月に改定されました。バブル期以来の大幅な賃上げと言われ、官・民の労働組合が団結をして取り組んだ成果と受け止めているところです。しかしながら、昨今の物価上昇には追いついていないし、これでは、「経済の好循環」は厳しいと思います。引き続き、しっかりと官民連携のもと、2025春季生活闘争の取り組みを強化していきます。

次に、私たちの職場実態(働き方)と組織態勢の確立です。職場は、伐採量の増加、災害対応、民国連携業務、低コスト林業への対応等、業務量は増え続ける一方で、事業実行に必要な予算が不足していることや、定数削減による要員の減少が続く中で、厳しい状況は変わっていません。その中で、若年退職、メンタルヘルスでの休職者が出るなどの実態も続いており、実態からの要求、交渉を粘り強く進めていく必要があります。

そこで問われるのが、組織態勢の確立です。問題を問題として表面化させる取り組み、それが、組合員同士の話し合い、職場集会やオルグ、執行委員会での議論になってくると思っています。改めて、組合運動の基本を今一度取り組んでいく必要があると思っております。同時に、一緒に取り組む仲間を作らなければなりません。「一人の百歩より百人の一步」だと思えます。

次に政治情勢です。昨年10月に行われた第50回衆議院議員選挙では、「政治とカネ」の問題が主な争点となり、与党側が215議席と過半数を割り込み、野党勢力が235議席を獲得して与野党逆転、「一強多弱」から与野党伯仲の政治状況となりました。この選挙結果をうけて、少数与党による発足した第二次石破内閣は、これまでの数を背景にした強行的な国会運営が出来なくなり、そのことがどう国会に反映されていくのか、今後の国会での本格的論戦を注視していきたいと思っております。一方、与野党逆転、伯仲といっても、野党がまとまって行動することによって政治を動かす原動力となりますが、野党間の結束と連携に不透明な要素と課題が見られます。

今夏に参議院議員選挙が行われます。この間の自公政権によって推し進められた新自由主義的な政策によって貧困と格差が拡大しました。同時に、物価高、実質賃金が低下するなかでの生活の立て直しが急務です。格差解消、税の再配分機能の強化、軍事増税阻止、また、「人権」に対する施策の推進が求められます。合わせて、国有林職場の予算や要員等の課題は政治との係わりが密接であり、政治の場を通じて社会の課題、職場の課題を解決・実現をさせていく必要があります。「政治に無関係ではいられない」、政治と無関係ではいられないことです。

組合員の団結強化と労働条件の維持向上、2025春季生活闘争など、山積する課題の前進と平和と民主主義を守るため、働く者の声が届く政権交代の実現を目指し、連合や関係団体との連携を強化して、取り組みを進めていきます。2025年も組合員としっかり連携し、様々な取り組みに全力をあげることを誓い、組合員の皆さまのこの一年のご多幸を祈念して年頭のあいさつとします。



謹賀新年

年男・年女を迎えて

「これまで頂いた支援を周りの仲間へ」

佐々木 学

本局分会

採用から40数年経過したが、これまで新年を迎えるにあたって何かを決意をしたことはなかった。

原稿依頼を受け考えてみると、今まで数多くの人に会い、そして支えられてきたからこそ今の自分があることに改めて気づいた。

「成長」

河野 智紀

山形分会

仕事、プライベート、それぞれ目標があります。仕事においては、業務内容やそれらの元となる規約等を学び、組合員として社会人として当たり前のことを当たり前にこなせるように努力したいと考えています。

趣味で音楽活動をしているので、バンドメンバーと共に協力して、よりよい演奏ができるよう技術を高めたいと考えています。

「ありがたうを繋ぐ」

石鉢 幸恵

青森分会

皆様、あけましておめでとうございます。

この原稿依頼を受けて自分の年齢を思い出すという微妙な『お年頃』となりました。

家庭を持ち、特に子どもが生まれてからは、育休を始め様々な制度を利用し、多くの方々に支えられ助けながら働いてきた四半世紀でした。

2025年は、これまでの感謝の気持ちを込めて、今、頑張っている若い組合員の皆さんを支えられる人になりたいと思います。

「年女としての抱負」

柏木 里奈

三八上北分会

新年あけましておめでとうございます。

早いもので4回目の年女を迎える年となりました。

年女としての抱負は健康管理です。昨年初めて自身管理に気を付けなければと思うようになりました。

一人だと手を抜きがちになる食事は、しっかりと自炊をし、バランスの良い食事を心がけ、甘いものが好きで毎日多くちがちな間食を控え、十分に睡眠をとり、規則正しい生活ができる年になりたいと思います。

「2回目の年男」

武田 航史

津軽分会

新年あけましておめでとうございます！

今年で24歳になり2回目の年男を迎えます。

入庁して5年目となりますが、上司の方々から学ばべきところばかりで毎日新鮮な気持ちで業務等に励んでいます。

後の更なる発展を祈念いたします。

「気配りできるよこ」

茂木 大佑

本局分会

年男の抱負の原稿依頼を頂いたとき、自分のことながら全く自覚がなくて「もうそんな年なんだっけ？」と思わず驚いてしまいました。

就職してから14年目を迎えるようとしておりますが、まだまだ分からないことだらけです。

目をつけてしまいがちなのですが、周りにも目を向け、皆さんのお話しを聞き、配りのできる人間になれるよう努力したいと思っております。

「健康になる」

畠山 修

由利分会

新年あけましておめでとうございます。

早いもので4回目の年男を迎えることになりました。

今年目標は「健康になる」です。

今まではあまり健康に気をつけてなかったため、年齢を重ねるごとに体重の増加と健康診断で基準値を超える項目が増えてきました。

幸いこれまで大きな病気もせず過ごしてきましたが、今年も偏った食生活を直し平日禁酒から頑張りたいと思います。

「年男の抱負」

前田 寛尚

下北分会

新年あけましておめでとうございます。

採用からもうすぐ6年が経とうとしており、時の流れは早いと感じているところです。

さて、日々の生活を振り返ると、運動不足や不規則な生活により健康面への気遣いが足りないかなと反省しています。

挑戦する気持ちや様々なことに目を向けるには自分が健康であることが大事だと思います。

まずは、気軽にできる運動から始めて心身ともに健康的な生活を送り、これからも組合員として取り組んでいきます。

「年男の抱負」

武石 大地

盛岡分会

組合員の皆様新年あけましておめでとうございます。

この度、3回目の年男を迎えることとなりました。

長年の不摂生がたたり30代になってからは、持病が増えてきたので健康管理に気を付けていきたいです。

今年の抱負は、面倒ごとを巻き込まれないことです。

「この職場で働き続けるためにも」

藤本 貞信

遠野支署分会

新年明けましておめでとうございます。

申し上げます。

原稿依頼が来て、はじめて「年男」に気づき、早いもので4回目を迎えました。

30年程前からの不摂生の蓄積が、近年になって体の変化にも現れはじめ、体調管理には特に注意が必要であると痛感しています。

職場に目を向けると、時代が変わったのか、私たちが労働者が変わったのか、答えは見つかりませんが、青年部時代、よく議論した仲間のために、「仲間を一人にさせない」といった職場とは程遠い状況になっています。

この職場で働き続けていくためにも、働きやすい職場環境・悩みや不安を話すことができる職場作りを目指し、微力ながら職場で奮闘していきたいと思っております。

二〇二五年もよろしくお祈りします。

林野労組東北地方本部書記局一同

- 執行委員長 高橋 茂
副執行委員長 古村 光
書記長 伊藤 誠
執行委員 成田 篤
執行委員 土佐 浩
執行委員 佐藤 信
執行委員 高橋 凌
書記 柴田 のり子
書記 鎌田 のり子
森林労連共済業務担当職員 萩庭 ヒナ子
秋田地方 青森地方 西山 俊逸



「組合員と膝を交えた実態討論」から



書記長 伊藤 誠

新年、明けましておめでとうございます。
昨年は、石川・能登半島地震(1月)、愛媛県・高知県で震度6弱の地震(4月)、秋田県・山形県での記録的豪雨(7月)、宮崎県で震度6弱の地震で初めて南海トラフ地震の臨時情報の発表(8月)、能登半島豪雨(9月)、沖縄県での記録的豪雨(11月)等、自然災害による甚大な被害が多く発生し、今も復旧が続いている状況にあります。

政界では、2月に裏金問題で政倫審が開催され、6月に改正政治資金規正法が成立しましたが、10月の解散総選挙では、与党過半数割れとなり、国民が自公政権のこれまでの対応に対しては、強権的な国会運営を排除し、「政治改革」「復旧・復興対策」等、早期に進める事が求められていると言えます。

東北地本としては、組織率が年々低下している状況にありますが、「組合員と膝を交えた実態討論」から、「要求の具体化と交渉」を進め、「組合員に返していく」、当たり前の組織活動・運動の見える化を、今一度、全組合員で意思統一を図り、組織活動の再構築に向けた運動を展開し、新規採用者・未加入者の組織強化を重要な課題として取り組んでいきます。

労働組合の果たすべき役割・任務を自覚し、地本・分会が連携を図り運動を進めていくこと、組合の強化に向けた取り組みを進めたいと思っております。今年もよろしくお祈りします。